

ABOUT SLIDES 使用画像についての説明

滝野川クロニクル 2022

Aspect 1

近代産業化遺産 #1

醸造試験所 撮影 松原 容子

1904年（明治37）建造。東京都北区の十条台から板橋区の東部にかけて広がる台地や谷・低地には、幕末から始まる軍都の歴史がある。黒船来航を受けて1864年、現在の醸造試験所跡地公園一帯に、大砲鑄造用の滝野川反射炉・火薬製造所建造を計画するが、1868年の江戸幕府滅亡とともに壊廃。明治になり、石神井川(滝野川)の水運と千川上水からの王子分水を動力源として、紡績工場や製紙工場が同地に興る。1902年には大蔵省が醸造試験所を設立、酒税は我が国の戦費の一部を賄い続けた。

近代産業化遺産 #2

飛鳥山下跨線人道橋 撮影 江川 慎一郎

1925年（大正14）竣工。製紙工業・印刷工場が様々な化学薬品を使用したことから、王子一帯は北西から南東に走る鉄道を境に、東側の低地は工場地帯、西側の高台は飛鳥山公園・軍需施設・住宅地という構図が形作られ、軍用電車の線路が網目状に敷かれるようになる。

飛鳥山下跨線人道橋は、低地にある王子駅南口ホームと飛鳥山を結んでいる。国内に現存する数少ない古レールを構造材に利用した貴重なアーチ橋。

Aspect 2

軍都 北区中央公園文化センター 撮影 松原 容子

1872年（明治5）、赤羽火薬庫が設置されたことに始まり、陸軍の施設が次々と転入・新設・拡大された板橋・赤羽・十条・王子・滝野川一帯は「軍都」と呼ばれ発展した、太平洋戦争末期には軍関連施設の面積が北区の1割を占めていたという。そのため空襲により大きな被害を受けることとなった。

2008年にオープンした十条台の赤レンガ図書館は、1919年（大正8）に築造された砲兵工廠の倉庫275号棟をリノベーションしている。

中央公園文化センターの建物は、1930年（昭和5）に東京第一陸軍造兵廠の本部として建設された。戦後は、米軍が一帯を接收してキャンプ王子や極東地図局として使用していた。1968年（昭和41）ベトナム戦争激化に伴う傷病米兵受け入れのため、王子野戦病院が市民や新左翼による大規模な反対闘争の中で開設される。翌年11月に病院閉鎖、1971年に返還（122,404平米）。

1981年（昭和56）以降は、公共施設として利用されている。

Aspect 3

自然環境 #1

飛鳥山 撮影 松原 容子

武蔵野台地の東北のへりには旧石器時代からの遺跡や貝塚があり、飛鳥山公園の旧渋沢庭園内には古墳群がある。中世には鎌倉街道、徳川時代は日光街道が近くを通り、紀州出身の将軍吉宗が飛鳥山公園と音無溪谷を整備したことで、江戸近郊の一大行楽地となる。

徳川吉宗が整備した桜の名所「飛鳥山」の標高は、都内で最も低い25.4メートルだが、アスカルゴ（愛称）という世界一短い登山列車が麓と頂上を結んでいる。

自然環境 #2

石神井川が造り出す地形 撮影 松原 容子

石神井川は全長 25.2 キロメートルの一級河川で、小平市に源を発し、東京都北部を西から東へ流れ、北区豊島で隅田川に合流する。かつては飛鳥山の手前で南へと向きを変え不忍池まで流れていたが、武蔵野台地の突端を突き破り溪谷と堆積平野が繋がる特異な地形が作られた。たびたび起こった水害の中で、1958年（昭和 33）「狩野川台風」の被害は甚大だった。1975 年頃に始まった河川改修工事によって河岸は護壁に覆われ、蛇行していた部分は大小さまざまな緑地公園になっている。

「音無川・音無溪谷」は石神井川下流域の別名で、板橋区加賀あたりから王子駅までを指す。「滝野川」は「旧瀧野川区」からの町名で、石神井川下流域の古称であり、付近に滝が多かったことや急流が滝のように轟いていたことからそう呼ばれた。「音無川」と「滝野川」、この自然音へのアンビバレントな呼び名には先人たちの遊び心が感じられる。

Aspect 4

町工場と商店街 #1

町工場の名残 撮影 林 敏之

北に十条台、東には飛鳥山、南は都電に沿って西巣鴨を掠め、西では豊島区・板橋区と境を接する滝野川は多様な顔を持っている。写真は石神井川近くの谷津と呼ばれる低湿地、町工場の先にある観音橋を渡って坂を少し登ると、新撰組局長近藤勇の菩提寺「寿徳寺」がある。

町工場と商店街 #2

商店街 撮影 松原 容子

画像は人口密度の高いきつね塚商店街。商店と住宅が混在し、行き止まりの多いラビリンス。 滝野川 3 丁目と 6 丁目は戦災を免れたエリアで、長屋や銭湯、井戸、質屋など、大正から昭和にかけて建てられた建物や街並みを、今はまだ辛うじて見ることができる。

スクリフト 松原容子

ビジュアルエフェクト 山本亜矢